

第39回全日本少年野球大会
豊田・みよし地区予選

堅守で投手戦制す

益富中学校	0	0	0	0	0	0	0		0
豊田中央	0	0	0	0	0	1	×		1

【4月17日(日) 川田公園グラウンド】

先発した日下部（3年・梅坪台）が6回まで打たせて取るピッチングで益富打線を0点に抑えると、6回裏に1死から日下部、坪香（3年・猿投）の連打で出塁。相手のバッテリーミスの間に2、3死球が1という互いにミスが許されない状況の中で非常に締まった好ゲームであった。

優勝した豊田中央クラブは5月4日から口論義運動公園（長久手市）で行われる県大会に出場する。

貴重な決勝点を挙げチームメイトと喜ぶ岡村

創部3年目で初

墨とすると岡村（3年・浄水）の内野ゴロで先制。この1点を守り切り試合終了。両チーム合わせて3安打、四失点が2、という昨冬の優勝旗をもたらしたのは大会を通じてイフエンスだ。「打たせていけば周りがしつ

無四球完封で益富打線を抑えた日下部。16日、川田公園野球場



かり守ってくれるから
思い切って投げられ
た。」と先発した日下
部もバックへの信頼は
厚い。昨年までは接戦
になるとミスから自滅
するパターンもみられ
たが「今日は守ってい
て負ける気がしなかつ
た。みんな落ち着いて
いた。」と主将の神谷
(3年・井郷)の言葉
どおり、終盤2死2、
3塁のピンチもサード
ゴロで切り抜けるな
ど、浮足立つサインは
一人もいかなかった。そ
の裏に迎えた得点チャ
ンスには「絶対に打て
ると思って打席に入っ
た。エンドランのサイ
ンがでてあわてずし

喜ぶ岡村

つかりとスイングすることができた。「準決勝で勝ち越し2塁打を放った岡村（3年・浄水）はこの日も勝利につながる打点を挙げた。今日の試合は守りから少ないチャンスをもノにすることがで

ねぎらった。
新たな歴史を作った
豊田中央クラブ。「打
撃のレベルアップをし
て県大会に挑みたい。」
と力強く話した神谷主
将らナインは強豪が待
つ県大会へと着実に歩
みを進める。(宇田)

きた。守備に自信を持
てているのが大きい。
試合を通じて成長して
いる実感がある。選手
たちは本当によくやつ
てくれた。」と川本監
督は大会を振り返つ
た。「試合にでていな
いメンバーもサポー
トして本当によくやつ
てくれた。チーム全員
で勝ち取った優勝旗だ
と思います。県大会は
豊田みよしの代表とし
て戦ってもらいたい。」
と佐々木代表は選手を

(全日本少年豊田みよし予選)

豊田中央10 | 0美里中学校

豊田中央4 - 0 三好丘中学校

準々決勝
豊田中央3 - 0 三好中学校

準決勝
豊田中央6-2竜神中学校
(7回タイブレーク)

■ 豊田中央メンバー ■

監督 川本 潤
代表 佐々木 亮
(◎は主将、円内数字は学年、
カッコ内在籍中学)

TEAM	1	2	3	4	5	6	7		計
益富	0	0	0	0	0	0	0		0
豊田中央	0	0	0	0	0	1	×		1
益富	野畑 - 西								
豊田中央	日下部 - 岸川								

